

「鹿島小学校の鹿島太鼓伝承活動の取組」

1 学校名

薩摩川内市立鹿島小学校

- 2 学年・人数 1年生2人, 2年生2人, 3年生3人,
4年生2人, 5年生5人, 6年生3人(計17人)

3 日時・場所

(1) 練習の日時・場所

令和5年10月～11月 鹿島地区コミュニティセンター
令和5年11月1日(水) 学習発表会リハーサル
鹿島地区コミュニティセンター

(2) 発表の日時・場所

令和5年11月2日(木) 鹿島小学校学習発表会
鹿島地区コミュニティセンター

4 伝承・活用に取り組んでいる郷土芸能について

(1) 名称

鹿島太鼓(かしまだいこ)

(2) 由来

昭和55年鹿島村郷土芸能保存会が組織され, 昭和56年自治宝くじの助成金を使って太鼓を購入した。昭和57年から新しい郷土芸能として, 荒波に雄々しく立ち向かう漁民の姿を太鼓の音に表現した「鹿島太鼓」の創作を行い, 地区コミュニティ婦人部を中心に継承してきた。

その後, 鹿島中生徒が練習し, 文化祭等で披露してきたが, 平成25年度から休校になったため, 小学生が, 小・幼・地域合同文化祭で披露してきた。平成30年度からは, 中学生が海星中文化祭でも披露するようになった。令和2年度から, 小・幼学習発表会, 令和5年度からは, 鹿島小学校の学習発表会として実施し, 保護者・地域へ披露している。

(3) 構成等

大太鼓, 中太鼓, 締太鼓で編成している。参加人数によって竹太鼓等でアレンジすることがある。

5 保存会や地域との連携の具体

学校の教育活動としては, 「ふるさと・コミュニケーション科」の中で練習を位置付け, 地域の保存会の橋野恵子氏に指導していただいている。学習発表会までに6時間の練習を行っている。それ以外にも, 各学級でパートごとの練習を行っている。

太鼓はすべて保存会からお借りしている。バチは平成26年度に学校で児童用を購入し, その後, 毎年, 破損や児童数増加による不足分を購入している。

6 文化財伝承・活用の取組の工夫した点

学校と地域が協力しながら、地域の伝統文化を継承していくための重要な活動と位置付けて取り組んでいる。お盆に行われる港まつりや歓迎行事等で、地域保存会が演奏を行う。帰省した高校生や大人も入って演奏することもあり、子供たちの憧れや意欲を高める機会となっている。また、本校は留学制度による転入児童があることから、毎年、鹿島太鼓に初めて触れる児童も多く、技術習得の困難さはあるが、鹿島の伝統文化を知り、学び、体験できるよい機会ととらえ、練習に取り組むようにしている。

7 取組の様子（練習状況、発表の場等）



【練習風景①】



【練習風景②】



【練習風景③】



【令和5年度学習発表会での発表】

8 参加児童生徒・保護者・保存会・教員等の感想・意見

【3年生児童】

わたしは、今年初めて中太鼓の担当になりました。締め太鼓よりも大きな中太鼓をたたくのが、とても楽しみでした。まずは、教室で担任の先生といっしょにリズムを覚えました。毎朝みんなで何度も何度も練習をしました。そして、公民館へ行き、初めて中太鼓をたたく日がやってきました。初めてたたいたときは、「ドーン」と胸と足に響いてきて、何だか気がひきしまりました。学習発表会では、今までの練習の成果をたくさんの人に披露しました。とても緊張しましたが、みんなで音と心をつなげて、今まで一番良い演奏になりました。

【教職員】

児童によって担当する太鼓が違い、学年が上がるにつれて、大きな太鼓を任される。学年や経験を積み重ねると、責任が積み重なり、子どもたちの中でも自然に上の学年に憧れることができる縦割り活動である。太鼓保存会の講師から指導をいただき、教員が共に学び合う貴重な時間を過ごすことができるのも、この学習の魅力である。伝統芸能を通し、地域の風土や歴史を感じることができる鹿島太鼓を今後も継承していきたい。ただ、後継者や維持費が厳しい状況のため、なんらかのサポートが必要である。